

第6-3号

耕人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

平成29年8月5日(土)

「行動は必ず人に伝わる」

今年度の前半は、『耕人塾』テーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」の下、「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の実践活動を4回実施してきました。これまでの活動を振り返りながら、「行動は必ず人に伝わる」ということについて考えてみたいと思います。

6/24(土)7:30～の実践活動は石巻駅～中瀬公園のゴミを拾いでした。塾生からは「ご苦労様、と声を掛けられて嬉しかった」「通行人とあいさつをしながらの活動はすがすがしい気持ちになった」「街がきれいになることに貢献できるのはうれしい」などの感想が聞かれました。7/22(土)7:30～の女川駅周辺のゴミ拾いでも「これだけきれいなまちだったら、汚したくないよなあ」「ご苦労様、と声を掛けられて嬉しかった」「あいさつを交わしながらの活動は、大変気持ちがいい」などの感想がありました。

8/1(火)10:00～は『耕人塾』初の試み「プロジェクトk」の実践活動でした。環境保全リーダーの会等とも連携しながら、キャッチコピー（「ごみ箱あるっちゃ」「ポイポイ捨てずにホイホイ拾おう」）をデザインしたポスターや事前に制作した動くゴミ箱などを持ちながら、川開きで賑わっている街に三々五々繰り出しました。その時の感想は「ごみ回収しています。ゴミ箱あります。と、人混みの中で声を出すことに始めは抵抗があったが、回収している時にご苦労様と言葉を掛けられてすごくうれしかった」「最初は、ゴミをください。と言うのが恥ずかしかったが、ありがとうございますと、声を掛けられてからいっそう楽しくなってきました」です。また、8/2(水)5:30～では、「去年よりゴミが少ないが小さなゴミや煙草の吸殻が多い」「びんや空き缶が草むらや側溝にあり、目立たない場所にゴミが捨ててある」などの感想がありました。

今年初の「プロジェクトk」の実践活動を通じて、感じたことが二つあります。一つ目は「行動」することの大切さです。「行動」するには、情熱と勇気と決断が必要です。恥ずかしさを乗り越えて「行動」することが、人を大きく成長させるのだと思います。二つ目は、「行動は必ず人に伝わる」ということです。感想にもありましたが、塾生の「行動」が多くの人に伝わり、多くの人を動かしています。そして、そのような感謝の心や言葉が塾生にも伝わり、塾生の意欲や達成感につながっています。今回の「プロジェクトk」の実践が『耕人塾』の目指している「人間力を磨いて地域社会に貢献する」という輪の広がりになっていると実感しています。塾生の皆さんには、今回の「プロジェクトk」で学んだ、「行動」することの大切さと「行動は必ず人に伝わる」ということを普段の生活の中でも生かしてほしいと願っています。

「生きる勇氣に心を打たれる」(阿保伸堯君、仙台市青葉区・中学生14歳)

河北新報 H29.7.8(土)「声の交差点」に掲載された文章(要約)を紹介します。「フリーアナウンサーの小林麻央さんが6月22日、がんで亡くなった。彼女のブログには、悪化するがんと闘いながらも、普段の生活を楽しく送れていることが、何ページにも書かれていた。なぜ彼女のブログは多くの人を動かしたのだろう。私は、彼女が「生きる勇氣」を持っていたからだと思う。がんと診断され希望を失いかけた時が、彼女にもあったかもしれない。でも、それから逃げず、生きるんだという気持ちをブログで見せてくれたことが一番の理由だろう。世界のどんな風景よりも、身近な人が一人、そこに生き、心臓を動かしていることは、とても素晴らしいことである。世界には約70億の人がいる。70億の心臓が動いている。なんて嬉しいことなのだろう。」

生きるということは苦しいこともあります。楽しいこともたくさんあります。それをつくっていくのは私たち一人ひとりの心と行動なのだと思います。「自分の周りの環境のそのほとんどは自分がつくっている」という言葉があります。自分も回りも、もっとよくしたいですね。